

No.45 マリナ・アブラモヴィッチ 「黒い竜—家族用」

Marina Abramović

北川フラムさんのコラム / 1995 (平成7) 年 7月 15日付 立川市市報記事より

マリナ・アブラモヴィッチは旧ユーゴスラビア出身の女性アーティストで、人間の身体を使った仕事をします。以前は連合いの男性と万里の長城の両端から歩き始め、途中で出会うという、とてつもない美術的行為をしました。

その出会いの瞬間が実生活では永遠の別れになったということを聞いた時、美術とはそこまで真剣なことなのかと思ったほどです。

ここでは一つずつ分かれた機械搬出口のためのコンクリートパネルという特性を生かして、5人家族のための瞑想の壁を作りました。5人の背に合わせて、脳、心臓、性器の位置にブラジル産の水晶の枕が設置されています。人はその水晶に身体を当て、石を通して伝わってくる地球の鼓動を感じ、思いをはせるのです。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現 : UR 都市機構) 「ミニ通信」より

黒い龍—待機

私たちの生活はとてもスピードが速く、メディアによる情報の砲火に絶えず取り囲まれています。時間はますます短くなり、そのため私たちは落ち着きと内的なバランスを失っています。立川市の為の作品を制作するにあたり私はこういうことを考えました。

“する”のではなく、“あること”。

自分自身に向かい合い、今この瞬間を経験する事。これが信条です。

私が皆さんにお願いしたいのはバラ色の水晶のまくらが人間の体(頭、心臓、性器)と同じ比率で置かれた壁に向き合っていたいただきたいということです。

作品を見るのではなくそこに体を押し付けてください。

そうすることで自分自身に向き合い、物質のエネルギーを感じるのです。

私はこの壁が、あらゆる方向に海流が逆巻く大海に浮かぶ島のように、旅人たちの休息になってほしいと思います。